2018 年度

環境経営レポート

対象期間：2018 年 9 月 1 日
～2019 年 8 月 31 日
発行日：2019 年 9 月 30 日

エコアクション21
認証番号 0006956

廣間組有限会社

目次

目次	p.1
環境報告書作成の基本事項	p.1
ご挨拶	p.2
環境経営方針	p.3
会社概要	p.4～p.6
環境経営目標（中長期目標）とその実績	p.7～p.9
次年度環境経営活動計画表	p.10
中期(2015～2019)結果	p.11～p.12
環境経営活動計画の内容・取組み結果の評価	p.13～p.21
環境物品等の調達等の状況	p.22
地域貢献活動の状況	p.22
コミュニケーション及び防災・教育	p.23
生物多様性・低炭素化社会・循環型社会への挑戦	p.24～p.25
文部科学省 COC+事業	p.26
環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	p.27
代表者による全体評価と見直し結果	p.28

西宇

サクラ

ご挨拶

弊社廣間組有限会社は、徳島県南部の那賀川上流に位置する那賀町木頭（旧木頭村）に所在しております。木頭は徳島と高知の県境でもあり、四季折々の自然環境に恵まれたとても美しい所で、全国に誇る歴史と様々な伝統が残っています。弊社は、ここ木頭で創業より公共土木工事に携わり、林道開設や予防治山、国道整備や災害復旧など、地域のライフラインを担う大変重要な仕事をさせて頂いておりましたが、近年の不景気の波は弊社にも等しく訪れました。「このままではいけない、何かを変えなければならない」そのような思いの中、これまで弊社を育んでくれた地域や環境、自然を見るにつれ、環境豊かなこの地で生きる自分達だからこそできる事は何か、やらなければならない事は何か、そんな事を考えるようになりました。

そんな中、EA21地域事務局のグリーン化プログラムに参加した事がきっかけで、エコアクション２１の『環境経営』という考え方に強く共感を覚え、この『環境経営』こそが、今後の弊社の、そして地域の大きな魅力になると考え、平成２３年５月の認証・登録から今日まで環境経営を推進して参りました。その結果、第17回、第19回、第20回、第21回の環境コミュニケーション大賞において、全国に名だたる優良企業の皆様とともに、『環境活動レポート部門優秀賞』または『環境活動レポート部門優良賞』を受賞し、部門の名称が変更になった第22回では『環境経営レポート部門優良賞』を受賞することができ、弊社の活動を更に推進・発展させる大きな力となっております。これにより、平成２７年度から『山櫻プロジェクト』という新規事業を立ち上げ、エコアクション２１において三大テーマともいえる、（生物多様性）（低炭素化社会）（循環型社会）の実現を弊社なりに推進させていく活動を始める事ができました。プロジェクトも少しずつではありますが、確実に実績と成果が上がってきております。

弊社は地方の一中小企業に過ぎませんが、企業の大小や活動の大小に捉われず、出来る事や小さな事からコツコツと、継続し発展させていく事が地方企業の環境経営において最も大切な事であると考えております。今後も地方の建設業界は厳しい見通しではありますが、社員一丸となり環境経営に尽力致したい所存でございます。以上簡単ではございますが、ご挨拶とかえさせて頂きます。

廣間組有限会社

代表取締役　西田静男

環境経営方針

□　基本理念　－philosophy－

廣間組有限会社は、当社の事業活動に伴う地球環境への負荷に対し正しい知識を備え、これを最大限に活かす意識と知恵を持って、主体的な削減活動に取り組み、持続可能な環境経営システムを構築する事で、生活環境や生物多様性の保全、地球環境との共生文化を次世代へ継承し、強く美しい日本社会の実現、さらには国際社会全体におりなす地球環境問題に貢献します。

□　行動指針　－Standards of Conduct－

一.　私達は、常に基本理念に基づき行動し、基本方針に沿った事業活動を行います
二.　私達は、常に地域社会の一員である事を自覚し、一人々が責任を持った行動をします
三.　私達は、常に学び向上し、時代に通用する人財の育成と自己開発に努めます
四.　私達は、常に事業活動の改善を心掛け、より良い環境経営を目指します
五.　私達は、常に個人を尊重し、他者に敬意を払い、謙虚な姿勢で仕事に取り組みます

□　基本方針　－basic policy－

1. 当社の事業活動及び製品・サービスに関わる地球環境への負荷と影響を常時認識し、社員全員で環境経営に取り組み、生活環境や生物多様性の保全、地球環境への負荷を削減する事に努めます。
2. 当社の事業活動及び製品・サービスに関わる環境関連の法令、徳島県条例、那賀町条例、その他法規を遵守します。
3. 当社の事業活動及び製品・サービスに関わる環境影響について、以下の項目を環境管理重点テーマとして掲げ、この削減及び低減に取り組みます。

①二酸化炭素排出量
（電力使用量、ガソリン、軽油、灯油等石油系燃料使用量の削減）
②水資源使用量（排水量）の削減
③廃棄物の削減及びリサイクルの推進
④事務所紙資源の削減及びリサイクルの推進
⑤事務所周辺の清掃及び地域貢献活動（ボランティア）の推進
⑥グリーン購入の推進
⑦環境配慮商品・サービスの提供並びに施工の推進

上記の方針達成と環境経営活動を推進する為に、確固たるビジョンを含めた**V-PDCAサイクル**によるスパイラルアップを仕組み付け、激変する社会ニーズや地球環境に対し、柔軟かつ迅速に対応する事のできる環境経営システムを構築し、これを維持発展させ続けます。
また、本環境方針は全従業員及び取引先に周知すると伴に環境活動レポート等で社外へも公表致します。

制定日:　平成 29 年 9 月 1 日

廣間組有限会社　代表取締役　西田 静男

会社概要

（1）企業概要

名称及び代表者名

廣間組有限会社 代表取締役社長 西田 静男

環境管理責任者及び担当者

【環境管理責任者】西田　靖人〔mail〕y-n@hiromagumi.co.jp
【環 境 事 務 局】岡脇　麻美〔mail〕m-o@hiromagumi.co.jp

事業内容

【特定建設業】土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、
水道施設工事業、解体工事業
【一般建設業】建築工事業、管工事業
【運 送 事 業】一般貨物自動車運送事業

事業規模

操　業	昭和33年11月22日	設　立	昭和47年 2月 2日
資本金	3500万円	完工高	18707万円
従業員数	17名	事業所床面積	70m2

事業年度

平成30年９月～令和元年８月

当社は、産業廃棄物収集運搬業許可（有効期間：平成 26 年 11 月 12 日～平成 31 年 10 月 28 日）を有しているが、平成 30 年度分においては、この事業実績はありませんでした。この為、現状ではこの業については、EA21 認証・登録の対象外となっております。

所 在 地

【本社事務所・本社営業所】
〒771-6402
徳島県那賀郡那賀町木頭出原字ｲｼﾉﾓﾄ28-1
〔TEL〕0884-68-2320〔FAX〕0884-68-2014
〔mail〕hiromagumi@tk2.nmt.ne.jp
〔HP〕 http://www.hiromagumi.co.jp
〔facebook〕https://www.facebook.com/hiromagumi
〔Twitter〕https://twitter.com/Hiromagumi
〔Instagram〕https://www.instagram.com/hiromagumi/
【栩谷倉庫A】
〒771-6511　徳島県那賀町木頭折宇字栩谷78-6
【栩谷倉庫B】
〒771-6511　徳島県那賀町木頭折宇字栩谷51-2
【自動車車庫】
〒771-6511　徳島県那賀町木頭折宇字栩谷口2-1,4,5-1,5

事務所

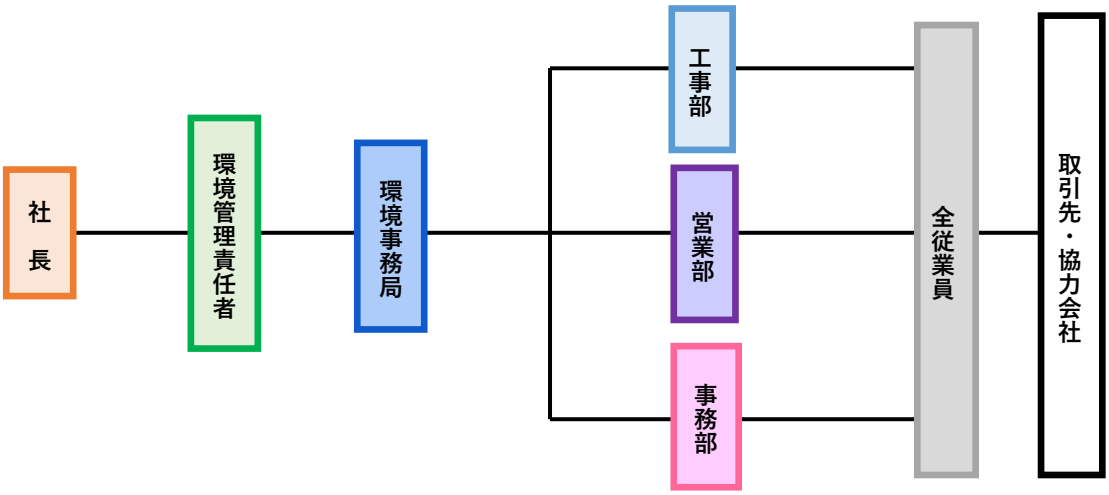
(2) 沿革

昭和 33 年 11 月 22 日	廣間組　創業
昭和 47 年 2 月 2 日	廣間組有限会社設立
	新規許可　徳島県知事(般ー47)第 286 号
昭和 58 年 8 月 2 日	資本金増額(1000 万円)
昭和 59 年 2 月 21 日	特定許可　徳島県知事(特ー58)第 498 号　土木工事業
平成 1 年 4 月 10 日	資本金増額(2000 万円)
平成 10 年 5 月 10 日	資本金増額(3500 万円)
平成 18 年 7 月 10 日	代表取締役　西田　静男　就任
平成 21 年 6 月 9 日	追加許可　　徳島県知事(般ー21)第 498 号　建築工事業、管工事業
平成 23 年 5 月 9 日	エコアクション 21 認証取得　認証・登録番号 0006956
平成 23 年 6 月 30 日	追加許可　　徳島県知事(特ー23)第 498 号　しゅんせつ工事業
平成 25 年 3 月 13 日	建設業ＢＣＰ認定　認定番号 H26-1061
平成 27 年 4 月 1 日	山櫻プロジェクト　始動
平成 28 年 8 月 1 日	一般貨物自動車運送事業　開始
	任意団体 山櫻プロジェクト会 設立
平成 29 年 5 月 30 日	経済産業省創設 おもてなし規格認証 2017　登録証取得
平成 30 年 4 月 12 日	経済産業省創設 おもてなし規格認証 2018　登録証取得
平成 31 年 3 月 8 日	経済産業省創設 おもてなし規格認証 2019　登録証取得
平成 31 年 3 月 29 日	追加許可　徳島県知事(特ー30)第 498 号　解体工事業

(3)賞状

平成 19 年 6 月 14 日	農林水産部長賞(H18 那林 林開星越神戸丸線木頭　那賀町　開設工事)
平成 19 年 7 月 10 日	県土整備部長賞(一般国道 195 号 平成 17 年災害国補第 1 号道路工事)
平成 23 年 11 月 8 日	農林水産部長賞(H22 那林 復旧治山事業 那賀町 石船谷 治山ダム工事)
平成 24 年 12 月 5 日	農林水産部長賞(H23 那林 林開星越神戸丸線木頭　那賀町　開設工事)
平成 26 年 3 月 17 日	第 17 回環境コミュニケーション大賞 環境活動レポート部門　優秀賞
平成 26 年 10 月 31 日	県土整備部長賞(H25 那土 国道 195 号那賀木頭折宇石畳～栩谷道路改良工事(1))
平成 28 年 2 月 24 日	第 19 回環境コミュニケーション大賞 環境活動レポート部門　優秀賞
平成 28 年 2 月 27 日	とくしま環境県民会議表彰　受賞
平成 29 年 2 月 22 日	第 20 回環境コミュニケーション大賞 環境活動レポート部門　優秀賞
平成 30 年 2 月 21 日	第 21 回環境コミュニケーション大賞 環境活動レポート部門　優良賞
平成 31 年 2 月 20 日	第 22 回環境コミュニケーション大賞 環境経営レポート部門　優良賞

(4)環境経営システム実施体制図



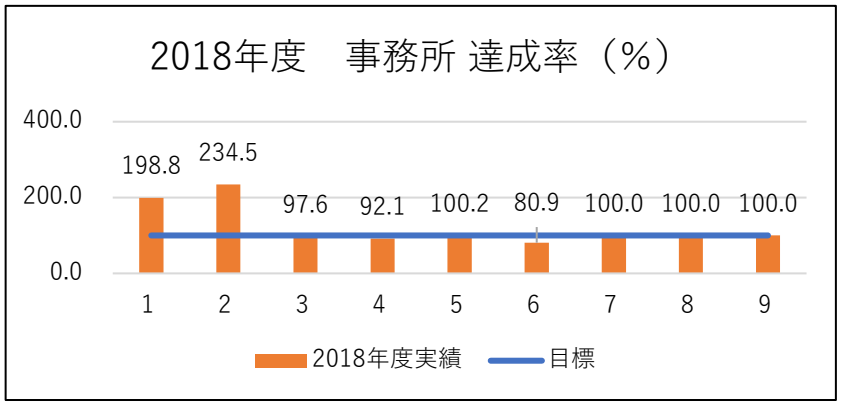
役職	氏名	役割・責任・権限
社　長	西田　静男	・環境経営に関する統括責任 ・EMS の実施及び管理に必要な人、設備、費用、時間能技術者を用意 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標の設定を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施
EA21 推進会議	（議長）松本恭典	・EA21 推進会議を開催し、管理・運営を行う ・内外部とのコミュニケーションを組織で共有し、EMS のスパイラルアップの定着化を推進 ・EA21 推進会議記録の作成と周知および保管
環境管理責任者	西田　靖人	・EMS を構築し、実施および管理を行う ・法規制等の要求事項登録簿を承認、及び遵守チェック ・環境活動実施計画書を承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告
環境事務局	岡脇　麻美	・環境管理責任者の補佐 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・「環境関連法規等チェックリスト」の作成、及び遵守チェック ・環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 ・環境活動実施計画の実績集計 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部門長	（事務部） 円奈　陽乃	・自部門における EMS の実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成及びテスト・訓練・記録 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置
	（営業部） 松本　誠	
	（工事部） 後藤　貴浩	
全従業員	各　自	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境経営目標（中長期目標）とその実績

◆事務所

項　　目	単 位	総量/原単位	2016 年度 実　績 基準値	2018 年度 目　標 (1.5%削減)	2018 年度 実績	2018 年度 達成率	2019 年度 目　標 (2%削減)	2020 年度 目　標 (2.5%削減)	2021 年度 目　標 (3%削減)
1. 二酸化炭素排出の削減	kg-CO2/年	総量	32666.7	32176.7	16184.3	198.8	32013.4	31850.0	31686.7
		原単位	9869.1	9721.1	8654.7	112.3	9671.7	9622.4	9573.0
2. 燃料使用量の削減	MJ/年	総量	396539.5	390591.4	166580.1	234.5	388608.7	386626.0	384643.3
		原単位	119800.5	118003.4	89080.3	132.5	117404.4	116805.4	116206.4
3. 電力使用量の削減	MJ/年	総量	84184.1	82921.3	84980.4	97.6	82500.4	82079.5	81658.6
		原単位	25433.3	25051.8	45444.0	55.1	24924.6	24797.4	24670.3
4. 水資源使用量の削減	m3/年	総量	159.0	156.6	170.0	92.1	155.8	155.0	154.2
		原単位	48.0	47.3	90.9	52.0	47.1	46.8	46.6
5. 一般廃棄物の削減	t/年	総量	0.116	0.114	0.114	100.2	0.114	0.113	0.113
		原単位	0.035	0.035	0.061	56.6	0.034	0.034	0.034
6. 事務所紙使用量の削減	枚/年	総量	33415.0	32913.8	40704.0	80.9	32746.7	32579.6	32412.6
		原単位	10095.2	9943.7	21766.8	92.1	9893.3	9842.8	9792.3
7. 事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進	回/年	-	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0
8. グリーン購入の推進	種目/年	-	4.0	4.0	4.0	100.0	4.0	4.0	4.0
9. 環境配慮商品並びにサービス提供の推進	数/年	-	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0

※ 項目（事務所 1～6）については、2016 年度の実績を基準とし、その基準値から 2018 年度までに 1.5%、2019 年度までに 2%、2020 年度までに 2.5%、2021 年度までに 3%の削減を目標とする。
※電力の二酸化炭素排出係数として、四国電力(平成 29 年度)の調整後排出係数 0.535kg-CO2/kWh を使用した。



【目標に対する評価・総括】

前年度同様に電力使用量の削減、水資源使用量の削減、事務所紙使用量の削減が達成できませんでした。水資源使用量の削減は大幅に水量の増加しているため、目標を達成できていないものの目標値の再設定を検討しています。また、今年度からエコアクション２１ 建設業者向けガイドライン 2017 年版を適用しています。

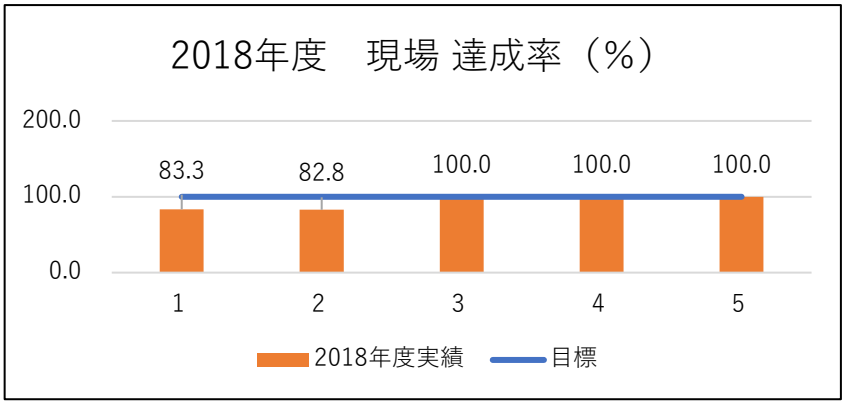
項目		取り組み内容	目標	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量	1.二酸化炭素排出の削減		32176.7 kg-CO2	16184.3 kg-CO2	198.8 %	○
	2.燃料使用量の削減	・通勤車輌の日常点検 ・エコドライブ１０の実施 ・高燃費・低排出ガス車の使用 ・乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節	390591.4 MJ	166580.1 MJ	234.5 %	○
	3.電力使用量の削減	・暖房器具等の使用時間の啓発 ・LED 電灯に交換 ・節電啓発ポスターを掲示する ・エアコンの温度設定（冷房 28°C、暖房 20°C）	82921.3 MJ	84980.4 MJ	97.6 %	X
4.水資源使用量の削減		・雨水を利用し、節水を行う ・水量調節ホースの使用 ・節水啓発ポスターを提示する	156.6 m3	170.0 m3	97.6 %	X
5.一般廃棄物の削減		・封筒・段ボールの再利用 ・自分用のゴミ箱（マイボックス）を設置し、持ち帰りを実施する ・分別・啓発	0.114 t	0.114 t	100.0 %	○
6.産業廃棄物の削減		・マニフェストの管理を徹底する	100.0 %	100.0 %	100.0 %	○
7.事務用紙使用量の削減		・裏紙利用の励行 ・印刷前にプレビューを徹底し、プリントミス・配布資料の削減 ・節紙啓発ポスターを掲示する	32913.8 枚	40704.0 枚	80.9 %	X
8.事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進		・週１回事務所周辺の清掃をする ・ロードアドプト事業を年４回実施する ・年１回ごみゼロキャンペーンに参加する	50.0 回	50.0 回	100.0 %	○
9.グリーン購入の推進		・文具及び材料の調達に際しエコラベル商品を優先して購入する	4.0 種目	4.0 種目	100.0 %	○
10.環境配慮商品並びにサービス提供の推進		・山櫻等の間伐材を利用した商品	50.0 数	50.0 数	100.0 %	○

目標達成○、未達成X

◆現場

項　　目	単 位	総量/原単位	2016 年度 実　績 基準値	2018 年度 目　標 (1.5%削減)	2018 年度 実績	2018 年度 達成率	2019 年度 目　標 (2%削減)	2020 年度 目　標 (2.5%削減)	2021 年度 目　標 (3%削減)
1. 二酸化炭素排出の削減	kg-CO2/年	総量	154005.4	151695.3	182159.9	83.3	150925.3	150155.3	149385.2
		原単位	46527.3	45829.4	97411.7	47.0	45596.8	45364.1	45131.5
2. 燃料使用量の削減	MJ/年	総量	2249918.0	2216169.2	2675139.6	82.8	2204919.6	2193670.1	2182420.5
		原単位	679733.5	669537.5	1430555.9	46.8	666138.9	662740.2	659341.5
3. 産業廃棄物の削減（リサイクル率の向上）	%/年	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
4. 事務所周辺の清掃等社会貢献活動の推進	回/年	-	53.0	53.0	53.0	100.0	53.0	53.0	53.0
5. 環境配慮製品・サービス提供並びに施工の推進	件/年	-	12.0	12.0	12.0	100.0	12.0	12.0	12.0

※ 項目（1～2）については、2016 年度の実績を基準とし、その基準値から 2018 年度までに 1.5%、2019 年度までに 2%、2020 年度までに 2.5%、2021 年度までに 3%の削減を目標とする。
※ 現場においては、電気および水（上水）の使用および文具の調達無し。



【目標に対する評価・総括】
二酸化炭素排出の削減、燃料使用量の削減の目標を達成できませんでした。
運送事業が軌道に乗っているため、燃料使用量の削減と二酸化炭素排出の削減の目標値の変更を検討しています。また、今年度からエコアクション２１　建設業者向けガイドライン 2017 年版を適用しています。

項目	取り組み内容	目標	実績	達成率	評価
1.二酸化炭素排出の削減		151695.3 kg-CO2	182159.9 kg-CO2	83.3 %	X
2.燃料使用量の削減	・重機車輌の日常点検 ・エコドライブ１０の実施 ・低騒音・排出ガス対策車の使用 ・乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節	2216169.2 MJ	2675139.6 MJ	82.8 %	X
3.産業廃棄物の削減	・廃棄物を同一種類でまとめて処理する ・リサイクル可能な処理業者を選定する ・廃棄物は可能な限り再生利用	100 %	100 %	100 %	○
4.事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進	・週１回現場周辺の清掃をする ・ロードアドプト事業を年４回実施する ・道路・林道の維持管理	53.0 回	53.0 回	100.0 %	○
5.環境配慮商品並びにサービス提供の推進	・工事使用材料に際し、可能な限り環境に配慮した材料を使用する ・施工に際し、可能な限り環境に配慮した機械の選定や施工方法で行う	12.0 件	12..0 件	100.0 %	

目標達成○、未達成X

次年度環境経営活動計画表

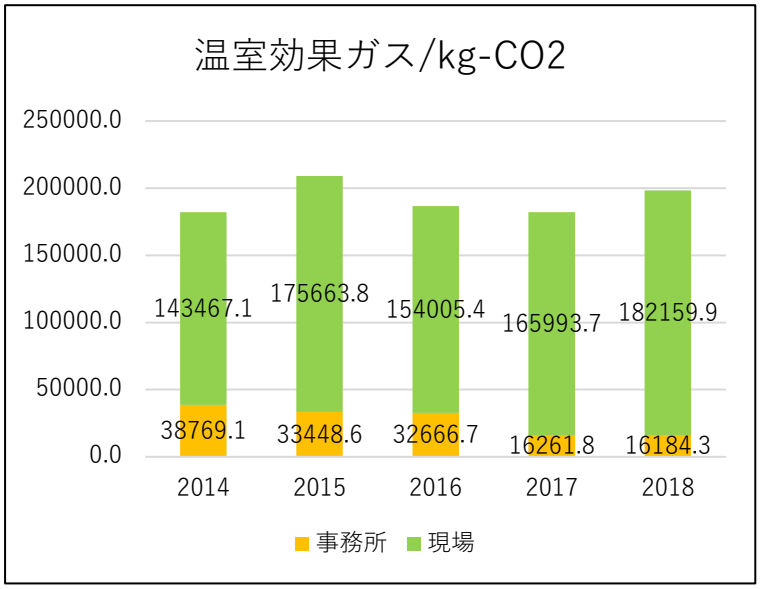
項　　目		取組事項	事務所	現場
二酸化炭素排出量の削減	□燃料使用量の削減	重機車輌・通勤車輌の日常点検	○	○
		エコドライブ１０の実施	○	○
		低騒音・排出ガス対策車の使用		○
		高燃費・低排出ガス車の使用	○	
		乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節	○	○
	□電力使用量の削減	OA 機器の節電啓発	○	
		事務所の間引き点灯を行う	○	
		節電啓発ポスターを掲示する	○	
		エアコンの温度設定（冷房 28°C、暖房 20°C）	○	
□水資源使用量の削減		雨水を利用し、節水を行う	○	○
		水量調節ホースの使用	○	
		節水啓発ポスターを提示する	○	
□一般廃棄物の削減		封筒・段ボールの再利用	○	
		自分用のゴミ箱（マイボックス）を設置し、持ち帰りを実施する	○	
		分別・啓発	○	
□産業廃棄物の削減		マニフェストの管理を徹底する	○	
		廃棄物を同一種類でまとめて処理する		○
		リサイクル可能な処理業者を選定する		○
		廃棄物は可能な限り再生利用		○
□事務用紙使用量の削減		裏紙利用の励行	○	
		印刷前にプレビューを徹底し、プリントミス・配布資料の削減	○	
		節紙啓発ポスターを掲示する	○	
□事務所周辺の清掃及び地域貢献活動の推進		週１回事務所・現場周辺の清掃をする	○	○
		道路・林道の維持管理		○
		ロードアドプト事業を年４回実施する	○	○
		年１回ごみゼロキャンペーンに参加する	○	
□グリーン購入の推進		文具及び材料の調達に際しエコラベル商品を優先して購入する	○	
□環境配慮商品並びにサービス提供の推進		山櫻・木頭杉等の間伐材を利用した商品	○	
		工事使用材料に際し、可能な限り環境に配慮した材料を使用する		○
		施工に際し、可能な限り環境に配慮した機械の選定や施工方法で行う		○

中期(2015～2019)結果

●温室効果ガスの排出量

温室効果ガスの排出量は、電力、ガス、ガソリン、軽油、灯油を事務所と現場・運送毎に算出し、その合計としました。

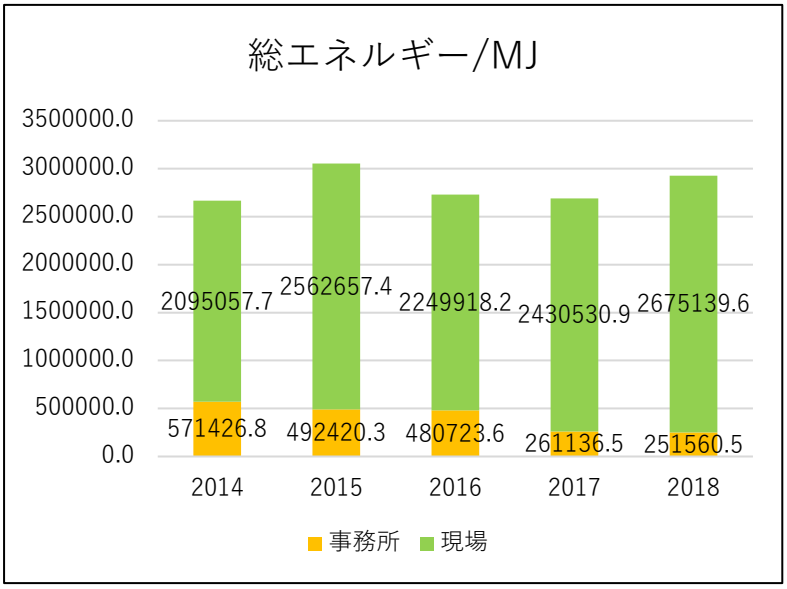
年度/項目	事務所	現場
2014	38769.12	143467.1
2015	33448.63	175663.8
2016	32666.73	154005.4
2017	16261.84	165993.7
2018	16184.26	182159.9



●エネルギー使用量

使用される総エネルギー使用量は、電力、ガス、ガソリン、軽油、灯油を事務所と現場・運送毎に算出し、その合計としました。2017 年から増加の理由は運送事業の開始に伴い、仕事数の増加したためです。

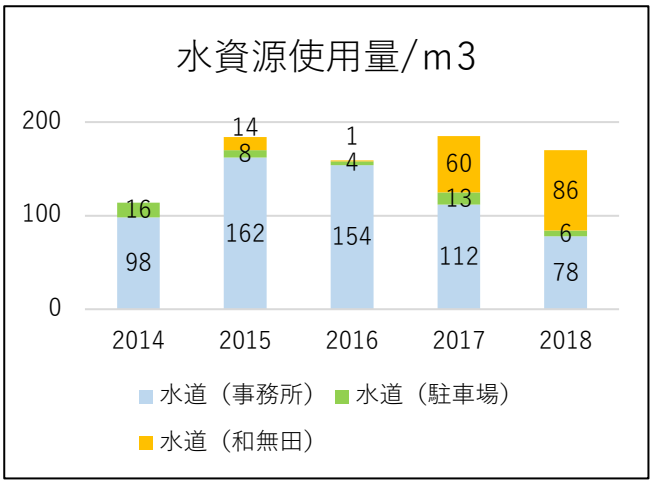
年度/項目	事務所	現場
2014	571426.8	2095057.7
2015	492420.3	2562657.4
2016	480723.6	2249918.2
2017	261136.5	2430530.9
2018	251560.5	2675139.6



●水資源使用量

水資源は事務所、駐車場、山櫻の苗畑で使用しています。苗畑の整備もあり、増加傾向にあります。

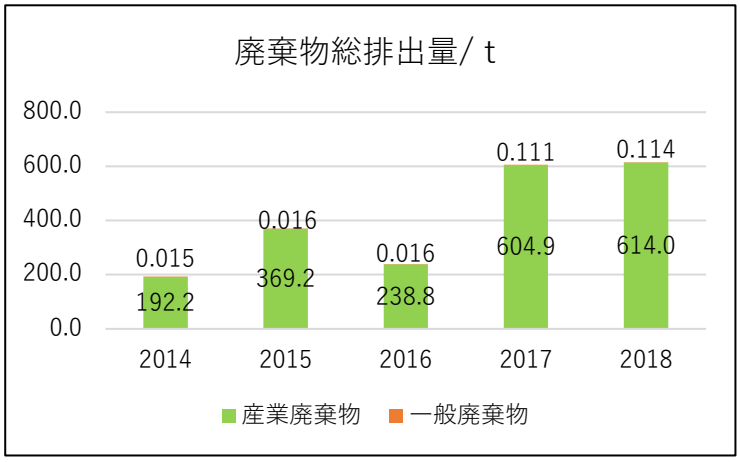
年度/項目	事務所	駐車場	苗畑
2014	98	16	
2015	162	8	14
2016	154	4	1
2017	112	13	60
2018	78	6	86



●廃棄物総排出量

廃棄物は一般廃棄物（燃えるゴミ・燃えないゴミ・資源ゴミ）と産業廃棄物（コンクリート殻・アスファルト殻・金属・根株・建設木材等）に分類され、排出されています。

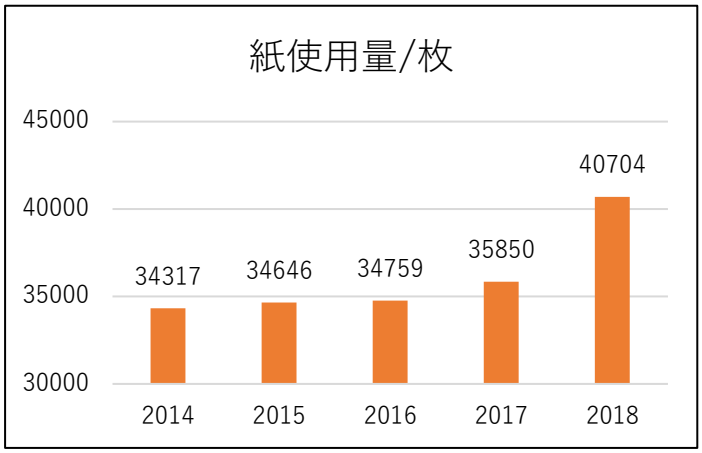
年度/項目	産業廃棄物	一般廃棄物
2014	192.2	0.015
2015	369.2	0.016
2016	238.8	0.016
2017	604.9	0.111
2018	614.0	0.114



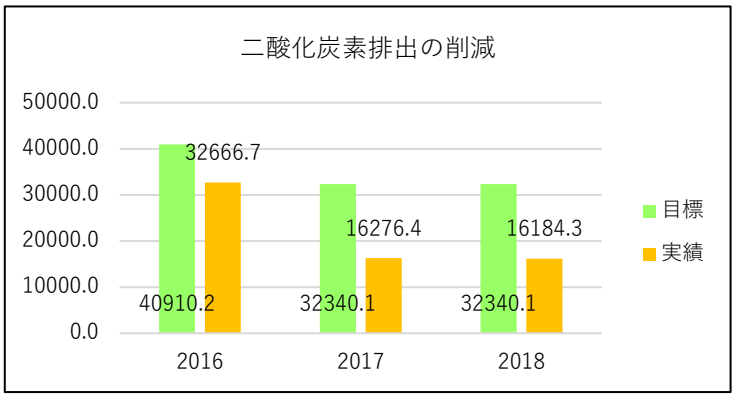
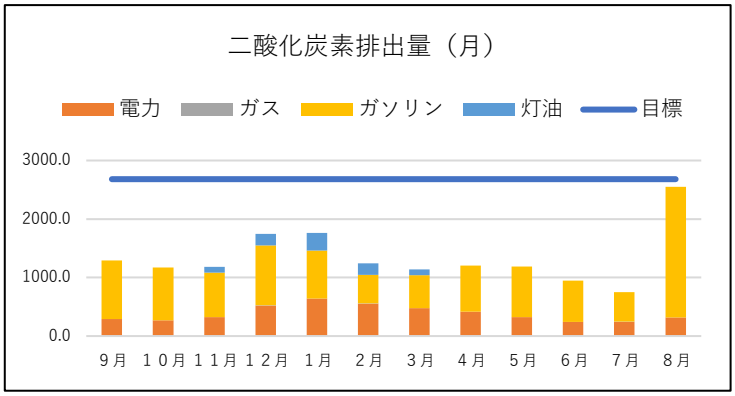
●事務所用紙使用量

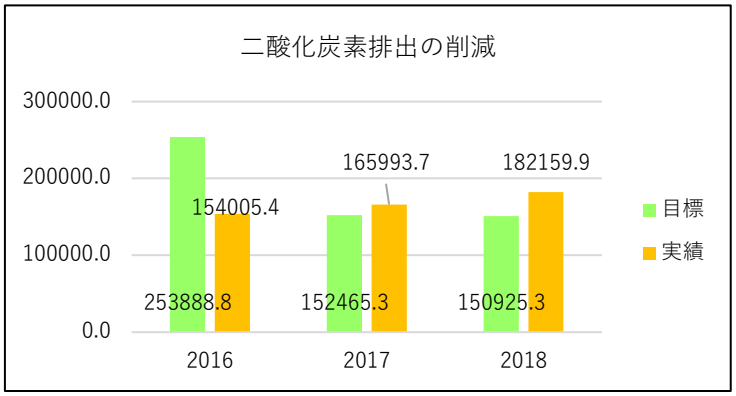
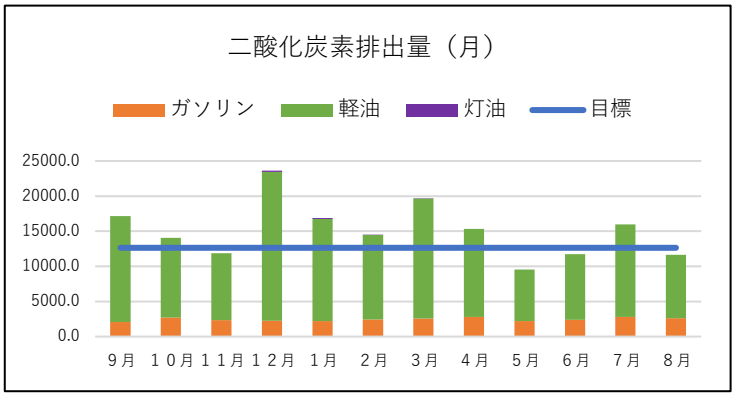
用紙使用量は事務所で使用するコピー用紙の使用量を削減するために再使用・再利用を行っています。

年度/項目	紙使用量
2014	34317
2015	34646
2016	34759
2017	35850
2018	40704



環境経営活動計画の内容・取組み結果の評価

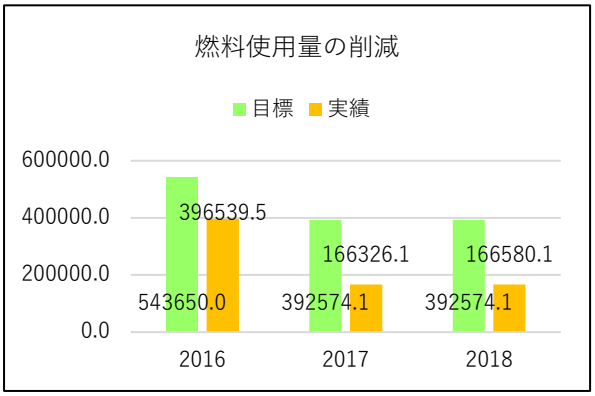
項目	二酸化炭素排出の削減（事務所）		
当年度における計画及び取組状況	・通勤車輌の日常点検 ・エコドライブ１０の実施 ・高燃費・低排出ガス車の使用 ・乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節	・暖房器具等の使用時間の啓発 ・LED 電灯に交換 ・節電啓発ポスターを掲示する ・エアコンの温度設定（冷房 28°C、暖房 20°C）	
環境負荷量（総量）	目標 32176.7（kg-CO2/年）	実績 16184.3（kg-CO2/年）	達成率 198.8（%）
環境負荷量（原単位）	目標 9721.1（kg-CO2/年）	実績 8654.7（kg-CO2/年）	達成率 112.3（%）
評価及び次年度における取組	・目標を達成することができました。 ・事務所の二酸化炭素排出量は燃料・ガス・電力の二酸化炭素排出量を合計で算出しています。 ・8 月が一番多かったが目標値より下になりました。 ・2 年連続大幅に目標値を下回ったので、目標値の変更を検討します。		
グラフ	3 年間の目標・実績  月ごとの排出量  		

項目	二酸化炭素排出の削減（現場）		
当年度における計画及び取組状況	・重機車輌の日常点検 ・エコドライブ１０の実施 ・低騒音・排出ガス対策車の使用 ・乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節		
環境負荷量（総量）	目標 151695.3（kg-CO2/年）	実績 182159.9（kg-CO2/年）	達成率 83.3（%）
環境負荷量（原単位）	目標 45829.4（kg-CO2/年）	実績 97411.7（kg-CO2/年）	達成率 47.0（%）
評価及び次年度における取組	・目標を達成することができませんでした。 ・現場の二酸化炭素排出量はガス・電力の使用がないため、燃料の二酸化炭素排出量で算出しています。 ・月の４分の３が目標値より上回りました。特に 12 月が一番多かったです。 ・目標達成を目指し、一層の努力をしていきたいです。		
グラフ	3 年間の目標・実績  月ごとの排出量  		

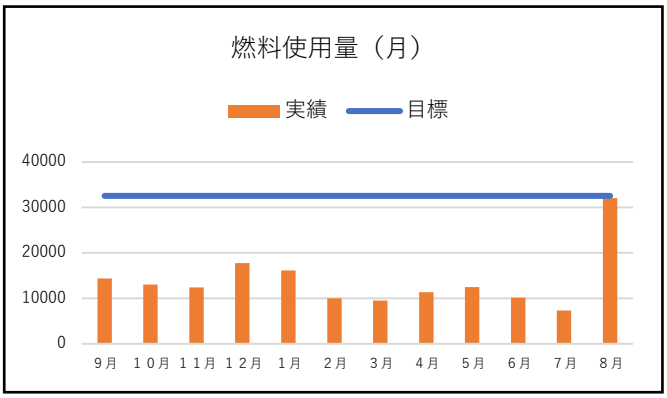
項目	燃料使用量の削減（事務所）		
当年度における計画及び取組状況	・重機車輌の日常点検 ・エコドライブ１０の実施 ・低騒音・排出ガス対策車の使用 ・乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節		
環境負荷量（総量）	目標 390591.4（MJ/年）	実績 166580.1（MJ/年）	達成率 234.5（%）
環境負荷量（原単位）	目標 25051.8（MJ/年）	実績 89080.3（MJ/年）	達成率 132.5（%）
評価及び次年度における取組	・目標を達成することができました。 ・遠地への乗り合わせやエコドライブ 10 の実施を行った結果、削減ができたのではないかと推測しています。 ・取組事項の継続。乗り合わせやエコドライブ 10 の実施など引き続き行っていきたい。		

グラフ

3 年間の目標・実績

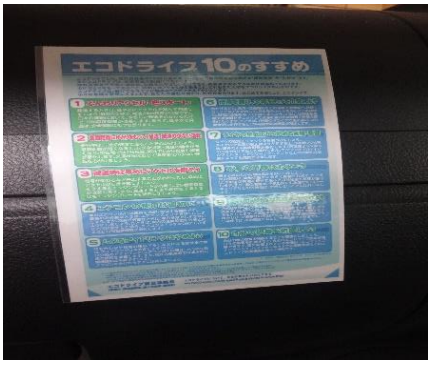


月ごとの排出量



活動写真

通勤車両の日常点検

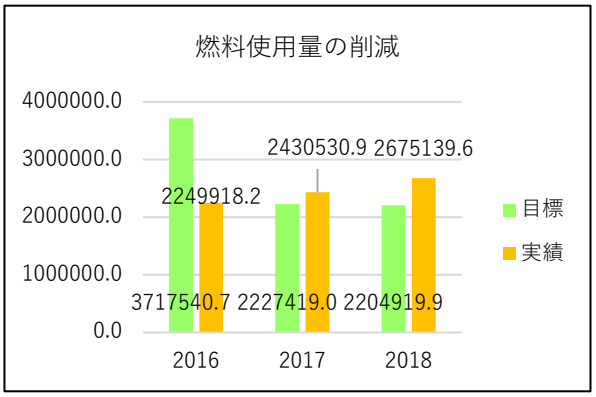


エコドライブ 10

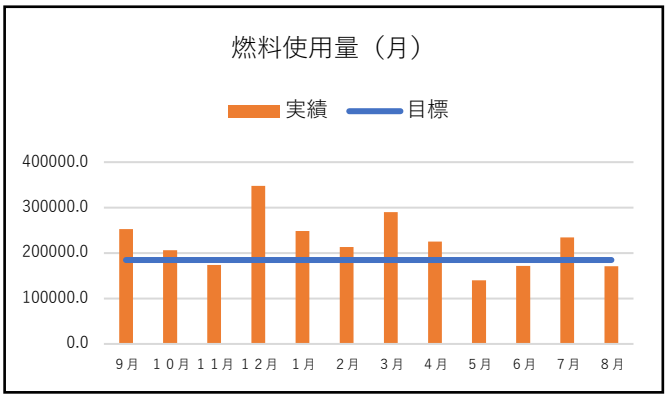
項目	燃料使用量の削減（現場）		
当年度における計画及び取組状況	・重機車輌の日常点検 ・エコドライブ１０の実施 ・低騒音・排出ガス対策車の使用 ・乗り合わせの励行及び車内温度の自然調節		
環境負荷量（総量）	目標 2216169.2（MJ/年）	実績 2675139.6（MJ/年）	達成率 82.8（%）
環境負荷量（原単位）	目標 669537.6（MJ/年）	実績 1430555.9（MJ/年）	達成率 46.8（%）
評価及び次年度における取組	・目標を達成することができませんでした。 ・運送事業もあり、燃料の使用が増えました。 ・各工事の内容や施工時期が重なるなど様々な要因があり、前年度よりも少し上がりました。 ・取組事項の継続。工事で使用される燃料の予想が難しいですが削減を行っていきたい。		

グラフ

3 年間の目標・実績



月ごとの排出量



活動写真

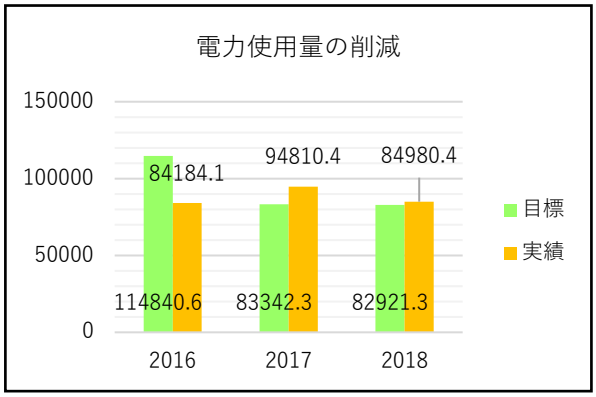
重機車両の日常点検

低騒音・排出ガス対策車の使用

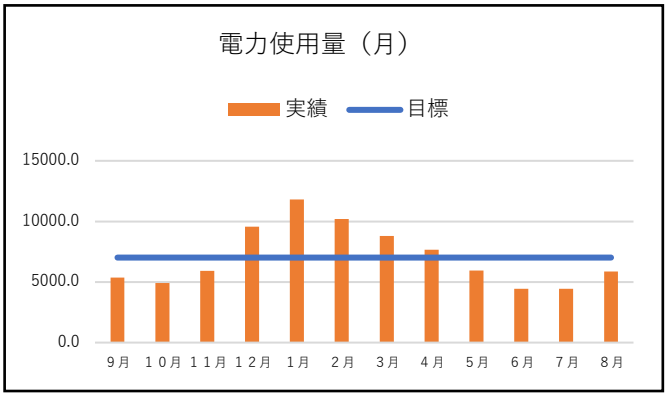
項目	電力使用量の削減（事務所）		
当年度における計画及び取組状況	・暖房器具等の使用時間の啓発 ・LED 電灯に交換 ・節電啓発ポスターを掲示する ・エアコンの温度設定（冷房 28°C、暖房 20°C）		
環境負荷量（総量）	目標 82921.3（MJ/年）	実績 84980.4（MJ/年）	達成率 97.6（%）
環境負荷量（原単位）	目標 118003.4（MJ/年）	実績 45444.0（MJ/年）	達成率 55.1（%）
評価及び次年度における取組	・前年より 10%減少したものの目標を達成できませんでした。 ・12 月～3 月に使用した暖房器具が達成できなかった原因だと推測しています。 ・暖房器具等の使用時間の啓発方法を新たに検討し、実施する予定です。 ・取組事項の継続。OA 機器の節電啓発も行っていきたい。		

グラフ

3 年間の目標・実績



月ごとの排出量



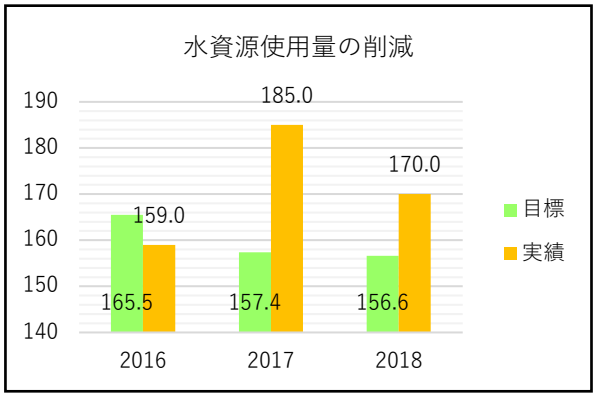
活動写真

LED 電灯に交換

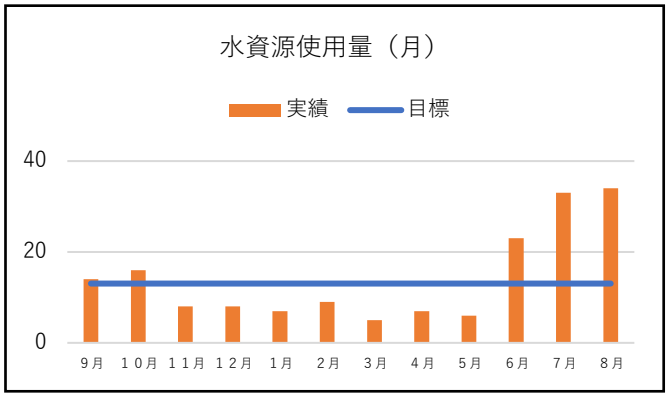
項目	水資源使用量の削減（事務所）		
当年度における計画及び取組状況	・雨水を利用し、節水を行う ・水量調節ホースの使用 ・節水啓発ポスターを提示する		
環境負荷量（総量）	目標 156.6（m3/年）	実績 170.0（m3/年）	達成率 92.1（%）
環境負荷量（原単位）	目標 47.3（m3/年）	実績 90.9（m3/年）	達成率 52.0（%）
評価及び次年度における取組	・前年より 8%減少したものの目標を達成できませんでした。 ・育苗場所のホースを耐久性の高いホースに交換し、苗木に水を与えているため 6 月～8 月は増加傾向です。来年度には目標値の変更を検討しています。 ・水量調節ホースをどこでも使用できるようにコネクターを蛇口に取り付けました。 ・取組事項の継続。節水啓発ポスター以外にも節水の呼びかけを行っていきたい。		

グラフ

3 年間の目標・実績



月ごとの排出量



活動写真

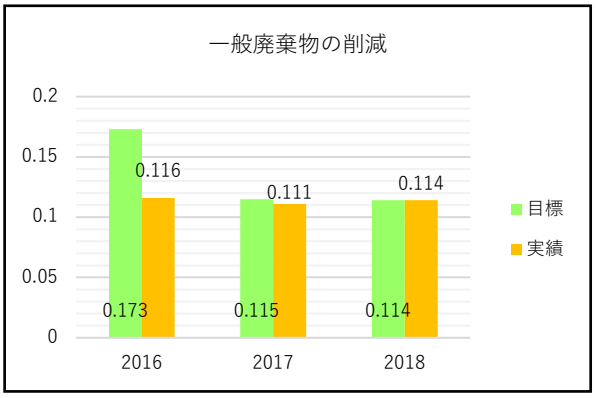
水量調節ホース

耐久性の高いホース

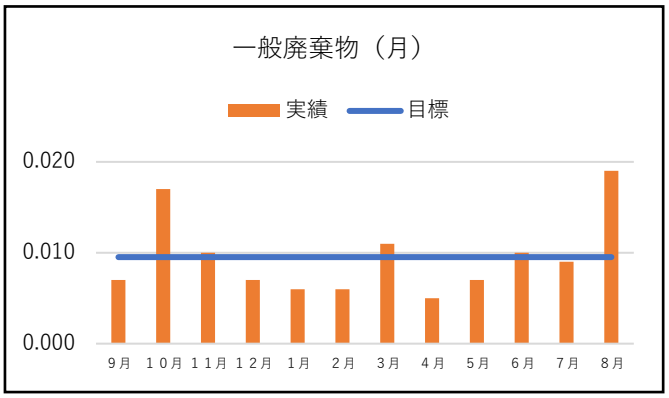
項目	一般廃棄物の削減（事務所）		
当年度における計画及び取組状況	・封筒・段ボールの再利用 ・自分用のゴミ箱（マイボックス）を設置し、持ち帰りを実施する ・分別・啓発		
環境負荷量（総量）	目標 0.114（t /年）	実績 0.114（t /年）	達成率 100.0（%）
環境負荷量（原単位）	目標 0.035（t /年）	実績 0.061（t /年）	達成率 56.6（%）
評価及び次年度における取組	・前年より 3%より増加していますが、目標は達成できました。 ・10 月と 8 月に大々的に大掃除を行った結果、他の月と比べてごみが増えました。 ・取組事項の継続。年 2 回の大掃除は行うので、別の月のごみの削減に取組んでいきたい。		

グラフ

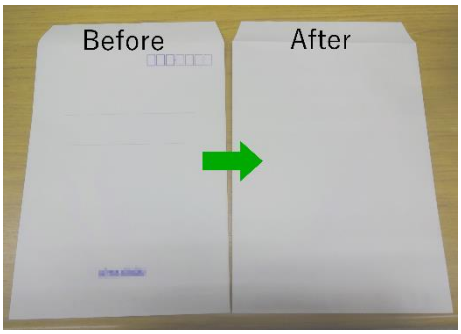
3 年間の目標・実績



月ごとの排出量



活動写真



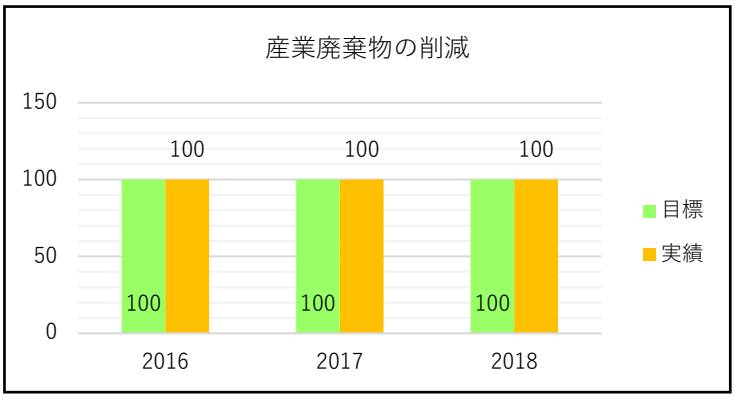
封筒の再利用

自分用のゴミ箱（マイボックス）を設置し、持ち帰りを実施する

項目	産業廃棄物の削減（リサイクル率の向上）（現場）		
当年度における計画及び取組状況	・廃棄物を同一種類でまとめて処理する ・リサイクル可能な処理業者を選定する ・廃棄物は可能な限り再生利用		
環境負荷量（総量）	目標 100.0（%/年）	実績 100.0（%/年）	達成率 100.0（%）
環境負荷量（原単位）	目標 －　（%/年）	実績 －　（%/年）	達成率 －　（%/年）
評価及び次年度における取組	・目標を達成することができました。 ・各工事現場で廃棄物の分別管理が行えました。 ・廃棄物を再生利用することができました。 ・取組事項の継続。廃棄物の分別と再生利用を行っていく。		

グラフ

3 年間の目標・実績



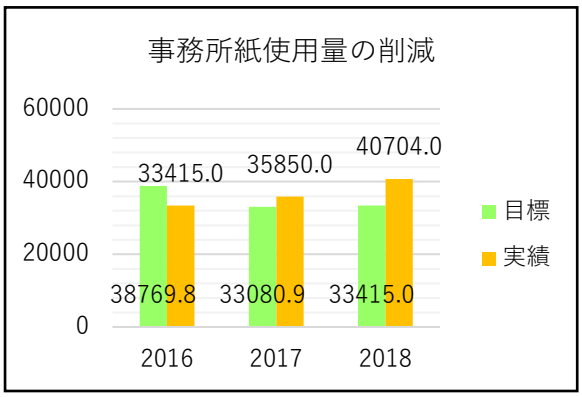
活動写真

根株の再利用

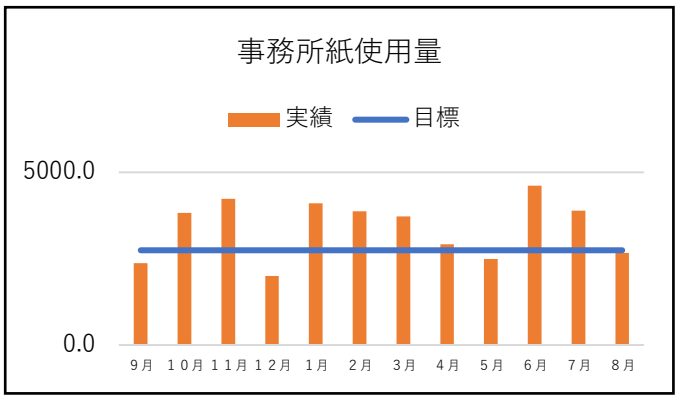
項目	事務所紙使用量の削減（事務所）		
当年度における計画及び取組状況	・裏紙利用の励行 ・印刷前にプレビューを徹底し、プリントミス・配布資料の削減 ・節紙啓発ポスターを掲示する		
環境負荷量（総量）	目標 32913.8（枚/年）	実績 40704.0（枚/年）	達成率 80.9（%）
環境負荷量（原単位）	目標 9943.7（枚/年）	実績 21766.8（枚/年）	達成率 92.1（%）
評価及び次年度における取組	・前年より%増加したものの目標を達成できませんでした。 ・紙での書類提出が多くありました。 ・急ぎの書類で焦った結果、プリントミスが多く見受けられました。 ・取組事項の継続。急いでいる時でもしっかり印刷前のプレビューを呼び掛けていきたい。		

グラフ

3 年間の目標・実績



月ごとの排出量



活動写真

裏紙利用の励行

節紙啓発ポスター

環境物品等の調達等の状況

国等による環境物品等の調達角推進等に関する法律（平成 12 年法律第 100 号）に基づき、事務所ではグリーン商品の調達、現場では可能な限り環境配慮商品の調達を推進しています。

(1)グリーン商品
商品 125 品を購入し、エコマーク 16 品、グリーン購入法 42 品、GPN59 品、森林認証 12 品の調達を行いました。

(2)環境配慮商品
工事現場にて工事に使用する材料は可能な限り環境商品を調達し使用しました。
事務所では山櫻の間伐材でお箸を作成し、ふるさと納税や敬老会に出品しています。また、徳島県のマスコットキャラクターのすだちくんの工事現場等仕様“安全すだちくん”の商品を提案し、徳島県産材を使用した商品「安全すだちくんの木製キーホルダー」として、その製造・販売を子会社が行っています。

県産木材使用看板

「木頭山櫻五稜箸」
ふるさと納税出品

「安全すだちくんの木製キーホルダー」
徳島県マスコットキャラクターすだちくん

地域貢献活動の状況

週 1 回の事務所周辺の清掃（ウィークリーン）、ごみゼロ、年 4 回のロードアドプトの清掃活動を行っています。また、道路の土砂や倒木除去等の維持管理にも力を入れています。多くの方が気持ちよく過ごせるよう精一杯努めています。

ウィークリーンとは、We clean と Week clean を掛け合わせた弊社独自の造語です。
毎週水曜日に事務所周辺の清掃活動（掃き掃除、草抜き、ゴミ拾い等）を実施しています。

倒木除去

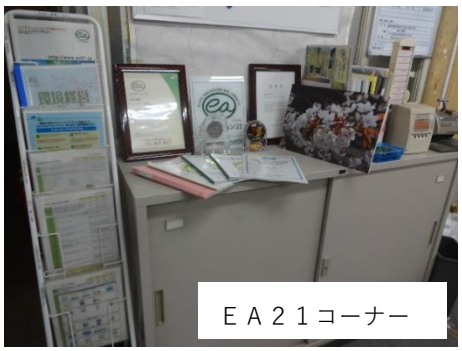
土砂除去

国道清掃

コミュニケーション及び防災・教育

(1)コミュニケーションの状況

事務所にＥＡ２１コーナーを設営しています。環境省の推進するクールチョイスに企業賛同し、レポートやパンフレットをはじめ環境方針、活動計画、活動状況等、様々な環境関係の情報を掲示・公開し、社員だけでなく誰でも閲覧や持ち帰りができるようにしております。また、内部コミュニケーションには、コミュニケーションボックスとグループラインで従業員からの声を集め EA21 推進会議に反映しています。
また、ホームページや facebook、Instagram、Twitter などの SNS を活用し、災害道路状況やイベント情報などを発信しています。また、環境経営レポート等も掲載し PR 活動を努めています。


ＥＡ２１コーナー

エコアクション 21 のホームページにも弊社の環境経営レポートが掲載されております。また、第 22 回環境コミュニケーション大賞の環境経営レポート部門に応募し、優良賞を受賞しました。この受賞で 4 年連続の受賞となりました。
受賞したことは建通新聞や那賀町発行の広報にも掲載され、PR 活動を行うことができました。

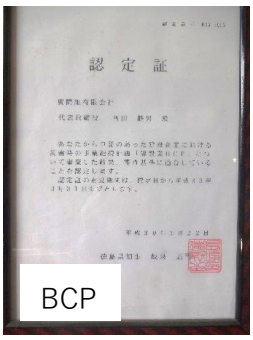
表彰式

建通新聞

広報(那賀町発行)

(2)防災・教育の状況

事業継続計画（BCP）に基づき、命を守る取組や早期復旧のための訓練に力を入れています。
防災対策として、事前の備えと日頃の訓練を行っています。備えとして飲料水・非常食・簡易トイレ、緊急キットを確保しております。
また、環境教育も年に一回全従業員を集めて行っています。



BCP

消火訓練

飲料水
非常食

環境教育

生物多様性・低炭素化社会・循環型社会への挑戦

里山の原風景を彩るサクラ。春になればその美しい花色と味わい深い立ち姿で、私たちの目と心を楽しませてくれます。その中でも、とりわけ私たち日本人と馴染みの深いヤマザクラが、ここ那賀町木頭においても近年減少傾向にあり、その存続を危惧されつつあります。私たちはこのヤマザクラを『山櫻』と称し、町内産山櫻の実生から育成した苗木を地域の林地等に植樹する事で、その保全（生物多様性への配慮）と、CO2 の吸収・固定（低炭素化社会の推進）を同時に図りながら、地域に山櫻の名所を誕生させていく活動を行っています。また、間伐や自然災害等で発生する倒木や古木の山櫻の未利用材からお箸や食器などの木工製品を制作し、売り上げの一部を植樹活動に使用する事で資源が循環する仕組みをとっております。さらに山櫻プロジェクトを架けはしとして、地域の様々なコミュティと共同活動を展開し、那賀町木頭地域の振興に向けた地域ネットワークの醸成に寄与する事を目指しております。山櫻プロジェクトとし日々活動しています。

(1)苗木の生育

採取した山櫻の種を蒔き、生育しています。現在は種は山櫻の他にもヒガンザクラ、シダレザクラなども生育を試みております。生育率は年々上がっており、当初は 40%だった生育率も今年は 95%に維持できました。また、発芽した苗木は鉢などに植え替えを行い、育苗場所に移動させ植樹ができるまで成長させます。植樹後の苗木には動物避けの防護ネットを設置し、防虫剤や活力剤等の肥料を与えています。

種

種蒔き

発芽

植え替え

植樹後の生育

防護ネット設置

活力剤・培養土

育苗場所

●苗木の育成で分かったこと

・以前は挿し木も試みていましたが、活着率が悪く成長も悪いため、現在は行っていません。

・種の発芽率を比較するため、保存方法として土の中と冷蔵庫を試しましたが、土の中の方が 6～8 割、冷蔵庫が 1～2 割の発芽でした。しかし、全体の発芽率は 45%前後の数値となり、発芽率が思うように伸びません。

・種を撒く土と植え替えの際の土は同じものを使うと枯れにくいですが、鉢よりも地植えの方が成長は早いです。

(2)植樹活動

新たにヤマザクラの名所（地域新観光地の創生）ができるよう、平成 28 年から植樹活動を行っています。平成 30 年から植樹イベントを実施し、多くの地域の方や学生たちに参加して頂いています。

また、苗木 1 本あたり CO_2 を 0.1kg-CO_2 の計算方法をしており、これまで 385 本の苗木をイベント等で植樹し、計算上 38.5 kg-CO_2 の削減となりました。

植樹イベントの活動写真

2019 年 3 月 9 日　総勢 37 名参加

(3)環境教育・PR 活動

毎年 1 月に木頭学園の 9 年生を対象に卒業記念として箸つくり体験を行っています。また、森林の果たす役割や生物多様性についての講義も行い、環境教育にも力を入れています。

地域のイベントに参加し、建設業や植樹風景などのヤマザクラのパネル展示などを行い、山櫻プロジェクトの PR 活動も行っています。

敬老会

米寿を迎えられた方１７名に八角形の山櫻箸を記念品として進呈しました。

木頭産業文化祭

木頭杉のお箸や山櫻のコースターなどを販売し、パネルにはヤマザクラの情報等を展示しました。

箸作り体験

木頭学園 9 年生を対象に、森林の果たす役割や生物多様性の講義を行い、ヤマザクラと木頭杉の間伐材を使用し、入試前の合格を願って自分用に五角形のお箸を 1 膳、お世話になった家族への感謝の気持ちを込めてもう 1 膳製作しました。

作品展

徳島市立木工会館で“木頭スギで町を元気に～廣間組＆Wood Head の間伐材の作品展”を開催し、苗木の育成方法などを記載した資料などの展示を行いました。

文部科学省 COC+事業

文部科学省 COC+事業　実践力養成型（寺子屋式）インターンシッププログラムの協力企業として、
徳島大学生のインターンを受け入れ「RRPG（リアルロールプレイングゲーム）型ツアー」の開発

＜概要＞

弊社は中山間地域の土木事業者として、地域のライフラインにとどまらず、地域の歴史文化を守り、若い世代や地域外の人々に伝えて残していくミッションがあると考えています。これに則って、徳島大学COC+推進本部および徳島大学生と共に、地元の魅力を編集しツアーに仕立てるプログラムを設計しました。本年度は、2018 年 3 月までに実施したツアープランの精度を高める目的で実施しました。名所を巡るような観光ツアーではなく、参加者が木頭ならではの自然や文化に触れ、地元の人々の暮らしを実際に追体験するような（＝リアルロールプレイング）独自性あるツアーのデザインとガイドマップの作成、ツアーデモを実施しました。

＜プロセス＞

1.現地調査
2.ツアーデザイン・・・ツアーコンテンツや協力者、ポイントとなるスポットなどを設定
3.現地ヒアリング・・・地元住民に、地域の魅力や残していきたいことなどをヒアリング
4.ガイドマップ、木頭に語り継がれてきた口伝「木頭がたり」の作成
5.ツアーデモの実施・・・2018 年 12 月 1 日、2 日 参加者 16 名（スタッフ含む）で実施
6.ツアーの検証

左上：現地調査、右上：ヒアリングの様子、左下：ツアーデモの様子、右下：木頭がたり

＜実施してみて＞

当地域の魅力を再認識し、地域の課題を後世への学びのコンテンツとして置き換えた独自性ある「ツアー」の素地を計画できました。今後、参加者のニーズや運営可能な形にアレンジしながら実施に向けて検討していきます。

環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果

並びに違反、訴訟等の有無

適用される法規制	適用される項目	評価
■環境基本法	■自然環境の保全措置	○
■グリーン購入法	■環境物品購入	○
■地球温暖化対策推進に関する法律	■温室効果ガスの排出の抑制	○
■環境配慮事業促進法	■事業活動に係る環境情報の提供	○
■廃棄物の処理及び清掃に関する法律（産業廃棄物）	■委託契約、許可証の確認、マニフェストの保存義務	○
■廃棄物の処理及び清掃に関する法律（一般廃棄物）	■ゴミの分別排出。野外焼却の禁止	○
■建設リサイクル法	■分別解体、再資源化の促進	○
■特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	■特定家庭用機器の適正処分	○
■浄化槽法	■浄化槽の処理後でなければ公共用水域に排水禁止	○
■大気汚染防止法	■機関事に期日を守り、書類を届出。	○
■オフロード法	■基準適合機械の使用	○
■騒音規制法 ■振動規制法	■作業敷地境界(騒音)85db 以下(振動)75db 以下 （ただし作業時間、期間の規定あり）	○
■特記仕様書	■特記仕様書に準ずる。	○
■徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例 ■徳島県生活環境保全条例	■事業者は気候変動対策に関する取組みを積極的に行い、県が実施する気候変動対策に協力するよう努める。	○
■那賀町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	■一般廃棄物の分別。	○
■那賀町景観条例	■良好な景観の形成に寄与・施策に協力	○

※環境関連法規制等への違反はありません。また、関係当局より違反等の指摘は、過去３年間ありません。

代表者による全体評価と見直し結果

対象	変更の有無	評 価
■環境経営方針	□有／■無	今後も環境方針を基軸に取組みを行う。しかし、目標はあくまで目標であり、達成できたとしても『常に今が最低』という意識で臨み取り組んでいかなければならない。また、数値目標だけにとらわれ過ぎず、『何の為にやっているのか』という本来の目的を見失わないよう、常に基本理念に立ち返り、より良い環境経営を目指していく。
■目標・計画	■有／□無	原単位の目標値を設定。
■その他	■有／□無	建設業者向けガイドラインを 2009 年版から 2017 年版に変更。

✶総括　　―代表取締役　西田　静男―

今年度の未達成項目は「電力・水資源・紙使用量、現場の二酸化炭素・燃料」でした。

他の項目は事務所・現場とも、達成する事ができました。

事務所での未達成項目の原因は電気の消し忘れなど些細なミスや、育苗施設の苗木の数が増えたためです。現場では、運送事業が軌道に乗ったことにより、ダンプトラックの使用頻度があがったことと比例し、燃料が増えたため未達成となりました。このことを踏まえ、新たに目標値を検討したいと考えています。

今年度から新たに原単位の設定を行いました。原単位に関しては手探りの状態に近いですが、社員全員が原単位を理解できるように周知を行っていきたいです。

また、文部科学省 COC+事業　実践力養成型（寺子屋式）インターンシッププログラムの協力企業として、徳島大学生のインターンを受け入れ「RRPG（リアルロールプレイングゲーム）型ツアー」の開発を 2 年続けて行い、ツアーデモを実施できました。徳島大学のインターン生と地域の方との地域交流の場を設けることができ、弊社が新たに行っている取り組みへの PR にも繋がりました。

今期の未達成項目を来期では達成に変えられるように努力を行い、そのひとつとして担当責任者には、毎月の削減率を出して頂き、社員全員のミーティングを重ねて目標値をめざし、今後も環境活動に取り組んでいきたいと思います。